

東京都庭園美術館

事業名	会期	概要
奇想のモード 接うことへの狂気、またはシュルレアリスム	2022年1月15日～4月10日	20世紀最大の芸術運動であったシュルレアリスムは芸術の枠を超えて、人々の意識の深層にまで影響力を及ぼしました。一方革新的な意匠を生み出そうとするモードの世界には、 シュルレアリスムに通底するような斬新なアイデア を垣間見ることができます。本展は「奇想」をテーマに、16世紀のファッショングラフから現代アートに至るまで幅広く展覧し、モードの世界にセンセーションをもたらした美の表現に迫ろうとするものです。
建物公開2022 アール・デコの貴重書	2022年4月23日～6月12日	旧朝香宮邸の魅力を紹介する、年に一度の建物公開展です。今回は、当館所蔵の1920-30年代のアール・デコ期の貴重書に着目します。本館では、カーテンを開けて自然光を探り入れるとともに、 家具や同時代の調度等 を用いて、往時の情景が思い描ける ような空間演出 を行います。新館では、旧朝香宮邸やアール・デコに関する雑誌や書籍等の貴重書を展示します。 華やかなショーウィンドウの写真集、博覧会やインテリアの特集雑誌、絵本や楽譜 等を通して、装飾性豊かなアール・デコの世界を紹介します。
蜷川実花展	2022年6月25日～9月4日	写真家の枠を超えて映画、デザイン、ファッション等ジャンルにとらわれることなく多彩に活躍する 蜷川実花による個展 です。旧朝香宮邸の 独特な建築を活かしたインスタレーション をご覧いただけます。本展のために撮りおろした 新作の写真や映像作品 を含め、各室ごとに趣向を凝らした演出が見どころです。「 蜷川による装飾展 」として当館全体の新たな見方を提示するものです。
旅と移動展	2022年9月23日～11月27日	庭園美術館の礎をつくった朝香宮夫妻の100年前のフランス旅行を手がかりに、1920-30年代の人々の旅心をかきたてた新たな視覚世界を、アール・デコ期のポスターや同時代の日本の観光ポスターを中心に紹介します。さらにコロナ禍により、リアルな旅が停止した2020年からの数年間を振り返り、旅という非日常体験が私たちにもたらす意味や可能性を、 現代作家たちのアプローチ を通して再考します。
機能と装飾 モダニズムとモダニティ	2022年12月17日～2023年3月5日	1910-30年代におけるヨーロッパ及び日本 の建築家やデザイナーたちの活動を通じて、従来のモダニズム史観を再考します。 消費社会・大衆社会の時代 においては、機能性や合理性が求められる一方で、「装飾」に大きな価値が与えられていました。本展では、流派を超えた当時の作家たちの関係性の環に着目し、 機能主義と装飾といったありふれた二項対立に収まらない、ジャンルを横断した活動を俯瞰的に紹介 します。

※この内容は2022年3月3日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

詳細は東京都庭園美術館広報担当までお問い合わせください。

※太枠は本プレスリリースの表紙に掲載している事業です。

＜お問い合わせ先＞

東京都庭園美術館

〒108-0071 港区白金台5-21-9

電話 03-3443-0201 <https://www.teien-art-museum.ne.jp/>

【開館時間】10時～18時 【休館日】月曜日(祝日・振替休日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始

※新型コロナウイルス感染防止等のため、開館時間等を変更する場合がございます。

最新情報は公式サイトでご確認ください。